



親子のコミュニケーション

「一日、どのくらいの時間お子さん（お家の人と）とお話をしていますか。」

以前担任していたクラスの保護者と子どもに取ったアンケート内容です。結果には一定の傾向がありました。

保護者は毎日数時間話していると回答したのに対して、子ども達は毎日ほとんど話していないと回答しました。親子間の意識の隔たりに驚きました。

親子のコミュニケーションを考えた場合、次の4つの場面が考えられます。またコミュニケーションとは言葉を交わすことだけでなく「同じ空間で過ごす」「一緒に何かを行う」ことも重要です。

1. お手伝いの場面

食事の準備、片付けを一緒にすることで、自然とほめる場面が生まれます。他には、掃除や洗濯などを一緒にすることで、正しい方法を教えるだけでなく、ほめる場面も生まれます。

2. 毎日の生活習慣

特別な時間を作らなくても、毎日の生活の中にもコミュニケーションの場面はあります。テレビを消した食事の場面、一緒に入るお風呂、毎朝の「おはよう」や「行ってきます」「おかえりなさい」などのあいさつで自然に話すことができます。

3. 学校の宿題やプリント

教え込んでイライラするのではなく、コミュニケーションの場として考えるようにしてください。「丁寧に書けているね」「大きな声で読めたね」など具体的にほめる場面としてください。また、プリントを確認することを、学校での様子を聞くきっかけにしてください。



4. 休日や余暇の共有体験

散歩や公園遊びなど、体を一緒に動かすことでコミュニケーションになります。また、何度もは難しいですが、外食や旅行などの非日常的な場面はコミュニケーションが取りやすい状況です。

どの場面においても、コミュニケーションを楽しんでください。お説教や指示ばかりでは子どもが心を閉ざしてしまいます。ほめる場や認める場になるようにコミュニケーションをとるようにしてください。